

そうだったのか!

学習評価

先生方の疑問に識者が答えます!

今号の
テーマ

Q 新学習指導要領が実施されてから、毎日生徒の学習状況を評価することに追われています。どうすれば評価にかかる負担を軽減できますか。

A 「総括的評価」と「形成的評価」を明確に区別して評価することで、評価にかかる負担が軽減されるとともに、適正に評価しやすくなります。

総括的評価は“評定のための評価”、形成的評価は“指導改善のための評価”と考えると分かりやすいかと思います。

総括的評価は、育成を目指す資質・能力が顕著に表れる場面で実施します。そのため、総括的評価は毎授業で実施する必要はなく、1度の総括的評価で、育成を目指す能力のすべてを見取る必要もないわけです。一方、形成的評価は、基本的に毎授業で行うべきものです。ただ、先生方が従来から行ってきた、授業中に生徒の様子を観察して理解度を把握することも、形成的評価の1つです。当然、すべての生徒を見取することはできませんし、その必要もありません。形成的評価は教科の指導改善に生かすことを目的としているからです。

先生方が負担に感じるのは、生徒の進路にも影響する評定のための評価である、総括的評価かと思えます。生徒全員を対象にした評価ですから、評価規準・基準や評価方法等を教師間で統一する必要があります。ただ、前述の通り、総括的評価は毎授業で実施する必要はありません。場面を限定して実施する総括的評価と、毎授業実施はするが、指導改善にどう生かすのかは個々の教師に委ねられる形成的評価、その2つの評価の違いが理解できるだけでも、評価に対する負担感は少なからず軽減されるのではないのでしょうか。

● 総括的評価と形成的評価の違い

	総括的評価	形成的評価
目的	評定をつける	指導の改善に生かす
実施 タイミング	育成を目指す資質・能力が顕著に表れると考えられる場面や成果物などを選んで実施	基本的に毎授業で実施
対象	生徒全員を評価	生徒全員でなくてもよい
仕組み	少なくとも同一科目では、教師間で評価規準や評価方法などを統一	教師それぞれの方法で評価してもよい
方法	単元末テスト、パフォーマンス課題、レポートなど	観察、振り返りシート、小テストなど

※田村教授への取材を基に編集部で作成。

負担感も軽減! 学習評価の本質を 押さえる



回答者

國學院大學
人間開発学部初等教育学科 教授
田村 学

たむら・まなぶ 専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官などを経て、現職。著書に、『学習評価』（東洋館出版社）など多数。

Q 形成的評価も総括的評価と同じように、評価規準などに基づいて観点別に評価した方がよいのでしょうか。

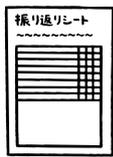
A 形成的評価も評価規準に基づいて行うことが望ましいですが、総括的評価より少し緩やかなイメージで捉え、徐々に精度を高めていきましょう。

生徒が各単元の学習目標を達成しているかを的確に把握し、その結果を指導改善に生かしていくために、形成的評価においても、評価規準に基づいて生徒の変容を捉えるに越したことはありません。

ただ、形成的評価は、あくまでも教師が自身の指導改善に生かすためのものです。すべての授業で評価規準に基づいて評価することも、生徒全員を評価することも求められていません。

形成的評価は、まずは無理のない範囲・方法で実施しましょう。

● 形成的評価の方法（例）



生徒の自己評価や振り返りから、目標の到達度を見取る



特定の生徒を継続的に観察して、活動を通じた変容を把握

Q 総括的評価を実施する、育成を目指す資質・能力が顕著に表れる場面とは、具体的にはどのような場面なのでしょうか。

A 顕著に表れる場面は、資質・能力によって異なるため、評価計画を立てることが重要です。

生徒は単元の中で様々な資質・能力を発揮しながら学びを進めていきます。また、教師は各単元において、重点的に育成する資質・能力を設定しているはずですが、それらを基に、小単元や学習活動ごとに評価する観点と、場面や成果物を検討します。例えば、「思考・判断・表現」の評価では、知識を習得する活動ではなく、問題解決に取り組む活動での生徒の姿を見取るといった具合です。「主体的に学習に取り組む態度」として、他者と協働して学びを深める態度を評価する場合は、協働学習の場面などが適しています。総括的評価の集積が評定に総括されるため、全生徒を公平に評価できる場面を選ぶことも重要です。

● 各観点の評価計画を、単元ごとに立てる

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小単元 1	○		
小単元 2	○		
小単元 3 (単元末)		○	○

各小単元の目標に応じて、学習活動や発揮される資質・能力は異なります。そのため、各小単元での評価の観点も異なるとよいわけです。
※田村教授への取材を基に編集部で作成。



👉 いきなりすべての単元ではなく、まずは次の単元の総括的評価と形成的評価の計画を立ててみましょう。

👉 分からない点は1人で悩まず、まずは相談。生徒の資質・能力を伸ばしている校内の先生に、学習評価の方法や工夫点について聞いてみましょう。